

埼高教分会長・書記長に
お渡し下さい
増刷して全教職員に配布
をお願いします。

埼高教新聞

埼玉県高等学校教職員組合
〒330-0063さいたま市浦和区高砂3-12-24
埼玉教育会館6F
電話:048-822-7421(代)
FAX:048-832-6791
http://www.saikokyo.or.jp
info@saikokyo.or.jp
編集責任者: 園根達男
毎月5・15・25日発行1部30円

「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」に対する見解

2009年2月26日
埼玉県高等学校教職員組合

埼玉県教育委員会は、2月23日「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」を策定しました。計画は2013年度までの県立高校の統廃合の数値目標を含むものとなっています。埼高教は、計画の策定がはじまる段階から、2000年3月に策定された「21世紀いきいきハイスクール推進計画」そのものの見直しとあわせて、高校統廃合をこれ以上行なわないよう県教委に申し入れてきました。今回、「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」が策定されたことで、あらためて埼高教としての見解を以下に記します。

1. 「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」策定の趣旨と経過について

「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の期間は、1999年度から2013年度までの15年間と設定され、今回最後の5年間の計画が示されました。しかし、1999年からのこの10年間に、「構造改革」による貧困と格差の拡大などで、「子どもの貧困」ともいわれる事態が子どもたちの生活を直撃しています。

「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」策定のための「21世紀いきいきハイスクール推進計画懇談会」の議論には、この10年の社会変動は反映されていませんでした。例えば、2007年度の授業料滞納者が前年比で1.7倍にもなるなどの子どもたちの経済的な困難は、議論を始めるにあたって事務局から配布された「検討のための資料」でも何ら触れられず、議論でもまったく扱われませんでした。

その意味で議論はきわめて不十分であったといわざるをえません。「21世紀いきいきハイスクール推進計画」そのものも含めて「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」はそのおもとから再検討すべきであると考えます。

2. これまでの施策の総括のない「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」

「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」には「中期までの実施結果」がまとめられていますが、この部分はすでに実施したことの羅列に終始しています。「21世紀いきいきハイスクール推進計画」がどのような成果をあげ、どのような課題をもっているかなど、計画策定から10年となった時点での総括はいっさい行われていません。その成果と課題を総括する必要がありますし、また総括が可能であるほどの時間が経過しています。

計画には、これまで県教委が推進してきたさまざまな教育施策をさらに推進していく方向性が示されていますが、現場はつぎつぎと降りてくる県教委からの新規事業に忙殺されています。今こそ総括を行い、その結果によっては、既存の事業の縮小も視野にいれて計画を見直す必要があると考えます。

3. 高校統廃合はこれ以上行なうべきでない

「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」は、2013年度の目標学校数を全日制は現在の139校から133~135校程度に、定時制(全定併置校)は現在の22校から17校程度にするとしています。私たちはもはや高校統廃合を行うべきでないと考えます。詳細について以下に述べます。

(1) 2009年度前期入試、後期入試ともに、公立全日制高校への志願者が増加していることなどに現れているように、子どもたちの経済的な困難の広がりや深まりのなかで、私立高校から公立高校へと志望がシフトしています。このような状況下で県立高校の統廃合は行なうべきではありません。

(2) 「21世紀いきいきハイスクール推進計画懇談会」では、委員からは高校統廃合に消極的なあるいは慎重な意見が数多く出されました。積極的に高校統廃合をすすめる声はありませんでした。委員からの意見を尊重すべきです。

(3) 定時制高校(全定併置校)の2013年度の目標学校数は、中期計画の目標数より若干多くなっています。しかし、高校統廃合がさらにすすめば、全日制高校から志願者が定時制に流れる結果、今後の入試で夜間定時制高校の倍率が1倍を超え、不合格者が出る可能性があります。教育の機会均等という理念が侵されるのではないかと危惧されます。また、『ゆとりとチャンスの埼玉プラン』や『生きる力と絆の埼玉教育プラン』にも「夜間定時制高校の充実」が盛り込まれていることから、夜間定時制高校はこれ以上減らすべきではありません。

(4) 「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」は「高校における特別な支援を必要とする生徒への対応」を強調していますが、高校統廃合がすすんだ結果、「特別な支援」が必要な生徒たちの学びの場が狭められてしまっているという現実があります。「特別な支援」をいうなら、まずは希望するすべての生徒に学びの場を保障すべきです。

(5) 「21世紀いきいきハイスクール推進計画(後期)」には、これまでなかった「専門高校や普通科高校との統合などの再編整備」という文言が入りました。専門高校の講座を高等養護学校、普通高校にも開放することなど、専門高校の施設設備の有効な活用も考えられるとの「21世紀いきいきハイスクール推進計画懇談会」での委員の提言もありました。「専門高校と普通科高校との統合」ではなく、専門高校をどのように生かすかの方向で考えるべきではないでしょうか。

県教委は2009年度には「後期再編整備計画」を策定し、統廃合の対象となる学校を指定するとしています。「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の策定からの10年間で埼玉の高校教育は数の面でも、内容の面でも大きく変化しました。それ以上に社会は大きく変動していますが、この変動は「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の方向で対応できるようなものでないことは明らかです。

私たちは県教委に対して、「21世紀いきいきハイスクール推進計画」そのものを見直し、来年度に予定される「後期再編整備計画」による統廃合対象校の発表は行なわないこと、また、教育条件の整備など教育行政の本来の役割を果たすことで、埼玉の高校教育を豊かに発展させていく立場にたつことを強く要求するものです。

